

年 組 名前：

中学生視力 1.0未満60%

21年度調査 過去最多

文部科学省は13日、2021年度の学校保健統計調査を発表した。裸眼視力が1・0未満の中学生は60・28%で過去最多。小学生の36・87%と、高校生の64・41%も近年の結果から大きな改善はなく、子どもの視力低下が深刻な状況

が浮かんできた。新型コロナウイルスによる一斉休校のあった20年度に悪化した太りすぎや痩せすぎの割合は減少傾向となった。文科省は視力低下について「スマートフォンなどの利用で、目に近い距離での作業が増えたことが影響した」と説明。授業でのデジタル端末活用も広がっており、学校には「目から30センチ以上離す」などの注意を促す。

視力1・0未満を学年別に見ると、小1で23・04%、小6で50・03%など。中高でも学年が上がると悪化する傾向があった。「裸眼視力0・3未満」も調べ、小学生10・64%、中学生28・23%、高校生33・18%となり、中学生が過去最多。

問1

2021年度に実施された調査で、子どもの視力低下が深刻な状況という結果がでました。文部科学省は、その原因を何と説明しましたか。

.....

.....

.....

.....

身長別標準体重などから算出した肥満度が20%以上の「肥満傾向児」の出現率では、小6が10・98%（20年度比0・40%減）、中2が9・70%（同0・70%減）などとなった。だが、ほとんどの学年でコロナ禍前の19年度の数値には戻らなかった。

痩せすぎに当たる「瘦身傾向児」は小中高の全学年で20年度より減った。文科省は、新型コロナウイルスにより家に閉じこもって生活リズムが乱れるような状況が改善しつつあるとみている。 || 関連記事19面

(2022年7月14日付 山梨日日新聞 21面)

問2

文部科学省は、調査結果を踏まえ、学校に対してどのような注意を促しましたか。

.....

問3

20年度の調査と比較すると改善傾向が見られる数値も出ていますが、コロナ禍前には戻っていませんでした。あなたは、普段の生活で、何を心がければ良いと思いますか。

.....

.....